

2023年8月のてがたんは申し込み制にて実施しました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成いたしましたので、ご覧ください。

次回9月のてがたんは9月9日(土)で、テーマは「好かれない生きものたち」です。ぜひご参加ください。9月1日(金)から電話での申し込みを開始いたします。市民スタッフのみなさま、次回の下見は9月3日(日)です。

8月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→親水広場→けやき広場→親水広場→鳥の博物館
- 観察日時と天気：2023年8月12日(土) 10:00~12:00 晴
- 参加人数：19名(大人11名、中学生以下8名)
- 市民スタッフ：5名(石原直子・伊東茂子・小泉伸夫・伴野茂樹・弘實さと子)
- 博物館友の会：1名(古澤紀元) ●鳥博職員：1名(小田谷嘉弥)

観察した生き物の記録

「*」は、下見だけで見られたもの。太字は羽を拾えた種

【鳥類】

キジ科：**キジ**(羽のみ)/カモ科：**カルガモ**/カイツブリ科：カイツブリ(声)/ハト科：**キジバト**/ウ科：カワウ/サギ科：アオサギ*、**ダイサギ**、コサギ/タカ科：トビ/カラス科：**ハシブトガラス**、**ハシボソガラス**/シジュウカラ科：**シジュウカラ**/ツバメ科：ツバメ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/エナガ科：エナガ(声)*/メジロ科：メジロ*/ムクドリ科：**ムクドリ**、**コムクドリ**(羽のみ)/スズメ科：スズメ/セキレイ科：セグロセキレイ*/アトリ科：カワラヒワ(声)/ホオジロ科：ホオジロ

家禽や外来種：**コバクチョウ**(羽のみ、カモ科)、**ドバト**(ハト科)

【両生爬虫類】

ウシガエル(声)、ミシシippアカミミガメ、ヒガシニホントカゲ*、ニホンカナヘビ

【魚類】

カタヤシ、ギンブナ

【昆虫】

チョウ目：ナミアゲハ、キアゲハ、アオスジアゲハ、ナガサキアゲハ、モンキチョウ、キタキチョウ、モンシロチョウ、ヤマトシジミ、ルリシジミ、キタテハ、コムラサキ*、コムスジ、オオミスアオ/トンボ目：シオカラトンボ、チョウトンボ、コフキトンボ、ノシメトンボ、ナツアカネ、ウスバキトンボ、アオモンイトトンボ、アジイトトンボ/バッタ目：ショウリョウバッタ、オンブバッタ、イボバッタ、トノサマバッタ、ヒメギス(声)、キンヒバリ(声)/ハチ目：ツチバチの仲間、ルリチュウレンジ*/ハエ目：センチクバエ/カメムシ目：アブラゼミ、ミンミンゼミ(声)、クマゼミ(声)、キマダラカメムシ(幼虫)

【クモ】

ジョロウグモ、ナガコガネグモ、ヒメグモ、オニグモの仲間、クサグモの仲間、アシナガグモの仲間

【花・実】

草の花 キク科：ブタナ、チチコグサ、ノコンギク、セイヨウタンポポ、キクイモ/サギゴケ科：トキワハゼ/アオイ科：モミジアオイ/マメ科：シロツメクサ、ムラサキツメクサ/スベリヒユ科：スベリヒユ/イネ科：エノコログサ、メヒシバ、オヒシバ/カヤツリグサ科：ヤマイ/トウダイグサ科：コニシキソウ/オオバコ科：ヘラオオバコ/ツヅラフジ科：アオツヅラフジ/ナス科：ワルナスビ/ツユクサ科：ツユクサ/ブドウ科：ヤブカラシ/アヤメ科：オオニワゼキショウ/アゼナ科：アメリカアゼナ/ヤマノイモ科：ヤマノイモ/ウリ科：カラスウリ/ヒユ科：ナガエツルノゲイトウ/アカバナ科：オオバナミズキンバイ/クマツヅラ科：クマツヅラ

木の花 スイカズラ科：アベリア/マメ科：ヤマハギ/アオイ科：ムクゲ/オトギリソウ科：キンシバイ

実 ツヅラフジ科：アオツヅラフジ/アサ科：エノキ/ブドウ科：ツタ

8月の観察アルバム



今回のテーマは「拾ってみよう！鳥の羽」でした。親水広場からけやき広場まで歩いて落ちている鳥の羽毛を探しながら、この時期らしい生きものの観察を行いました。後半は鳥の博物館内で、羽毛についてのお話をしたほか、拾った羽毛を実際に図鑑を使って調べてみました。



今月の案内人
小田谷嘉弥



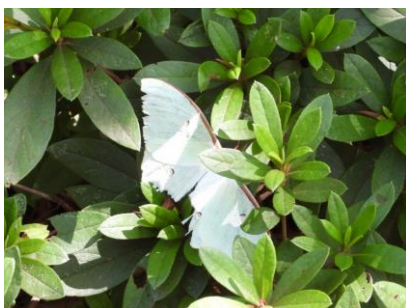
① 毒のあるアオツツラフジの実



② 地上に落ちていたムクドリ風切羽



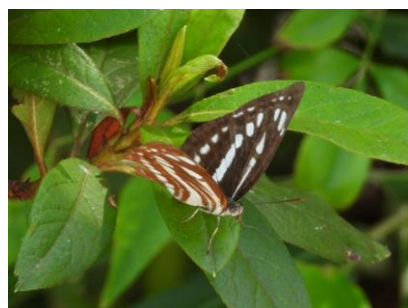
③ 木の実の入ったムクドリの糞



④ ツツジの植え込みで休んでいたぼろぼろのオオミズアオ



歩いたルートと観察した生き物



⑤ 活発に飛び回っていたコミスジ



⑥ 地上を歩いていたキマダラカメムシの幼虫



⑦ ナガエツルノゲイトウの浮島の上で魚を狙っていたコサギ



⑧ 水浴びしたあと熱心に羽づくろいしていたホオジロ

今月の鳥 ムクドリ (スズメ目ムクドリ科)

ムクドリは、手賀沼周辺では4-7月に樹のうろや建物の隙間などで繁殖し、2回の繁殖のピークがあります。巣立った幼鳥と繁殖が終わった成鳥は、「夏ねぐら」と呼ばれる大きな集団のねぐらを、沼沿いのヨシ原や、駅前の街路樹につくります。このねぐらが市街地に形成されると、騒音や糞による害がしばしば問題になります。ムクドリは、成鳥と幼鳥ともに夏から秋に全身の羽毛が生え換わります。この時期には、集団ねぐらの下、餌を食べにくる果実のなる木の下や、地上で餌を探る芝生の上などで抜けた羽を良く拾うことができます。この換羽が終わると、「冬ねぐら」と呼ばれる大きな集団に移行し、郊外の林などに移動することが知られています。落ちている羽からムクドリの生活を想像してみてください。



エノキの実を食べに来たムクドリ